

やぶなべ会報

自然を見つめる「やぶなべ会」(青森)発行

誌名	やぶなべ会報
号/発行年/頁	35 / 2014 / 39 (再編集版)
タイトル	第17回「森の広場市民観察会」
著者名	編集部

自然を見つめる やぶなべ会 (青森)

第17回「森の広場市民観察会」

編集部

2014年度のGW最後の日にあたる5月6日恒例の第17回「森の広場市民観察会」が開かれた。参加者は例年並みの約30名、今年は市内のテレビ局各社の取材もあり、その日の夕方のローカルニュースで放映されたので、たくさんの方が見てくれたようで、アップで写された方々にはあちらこちらの知人から電話を貰ったそうである。

今年は下見の段階で見つけた「モズのハヤニエ」は是非皆さんに見てもらおうということになり、今回の目玉としてとくに見ってもらうことにした。「ハヤニエ」にされていたのは私も初めてだったが、地上を歩きまわる甲虫の1種である「シテムシの仲間」であった。バッタやネズミ、カエルなどはしばしば目にするが、黒くて地味な昆虫が使われていたのは珍しかった。

モズがなぜこのような行動をするのかあまり良くわかっていないらしい。投稿された動画で見るとかなりしつこくミミズの様な獲物を刺し込もうとしている映像がある。「ハヤニエ」が刺されていた木はエゾツリバナで、何故かこの樹木だけが、ノウサギの食害を受けて樹皮が食べられていた。「森の広場」では最近ノウサギの個体数が殖えたらしく、遊歩道を歩けばノウサギの糞が転がっているのを良く見かける。

春の観察会はミズバショウとスマレ類の観察が主となるのだが、ミズバショウの見ごろである4月下旬では遊歩道に残雪が残っていたり、スマレ類がほとんど未開花だったりするので観察会の開催日を決めるには毎回悩ませられる。今年は幸い



モズのハヤニエ

天候にも恵まれ、ミズバショウ、「カタクリの他、各種のスマレ類、「ヒトリシズカが丁度旬の状態を観察できた。ただ、雪の消え方が早かったので例年見事に咲いてくれるオオヤマザクラが終わって葉桜になっていたのは残念であった。

また、リピーターの参加者もいたが、多くは初参加で、「地域町内会グループ」の代表の参加もあり、少しずつ市民の方々に「森の広場」の存在が知られて行っている様に感じられた。

(文責 五十嵐 正俊)



春の草花の説明を聞く。今年はテレビ局の取材が3社あり、各社のニュースや「特集番組」で放送された。